



あすなる通信

6月
2024年
6月号
June



今月の行事

本格的な梅雨の季節到来です。災害が起こりませんように！
健康に十分気をつけて、1学期のゴールを目指しましょう！

- 3日(月) カウンセリング
- 4日(火) 外国語活動
- 12日(水) 理科学習
- 14日(金) 食育
- 21日(金) 美術活動
- 24日(月) ヨガ



活動の様子 遠足 広瀬記念館・広瀬邸見学



※19日(水) ~小中担任連絡会

神野先生による理科学習 年間5回実施予定



【室長コラム】

私事であるが、最近、休みを利用して知り合いの農業の手伝いをしている。レモンの木を育て、3年後の収穫を目指す。その苗木を植え、育てる手伝いをしている。教育畑で、ずっと人と関わる仕事を続けてきた私にとって、自然相手の仕事はとても新鮮であった。今年の春から取り組んでいるが、作業をしながら、春霞のかかる遠くの山を眺め、近くでは桜の花を愛で、鶯の声を楽しむこともできた。作業を続けながら、鶯の鳴き声がだんだん上手になるのがわかる。夏が近づいた今も、近くの山に鳴き声が響いているが、見事に美しい声に仕上がっている。そんな季節の景色、音、そして匂いを楽しみ、季節の移り変わりを肌で感じながら、レモンの苗木を次々と植えていった。

今、その苗木が土に根付き、枝葉が伸び、芽が出てきている。根から養分や水分を吸収し、茂った葉で光合成をしながら、ぐんぐん成長している。そんな苗木に対して、今私がしている作業は、伸びてきた枝が広がり過ぎないようにひもで束ね、できるだけ幹から伸びている枝が地面と垂直になるように保つ作業である。根から葉へ、葉から根へと養分となる植物ホルモンが流れていく。枝を垂直に保つことによって、その流れがスムーズになり、生育が促進されるそうである。つまり、木の生命力に逆らわず、無理なく成長させるための作業をしているということになる。

目指しているのは有機農業である。有機農業とは、「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業」と定義されている。つまり、木自身が持つ育つ力を大切にしながら、自然の力を最大限に活用して成長させていく。また、木を育ててもらっている周りの環境にできるだけ悪影響を与えないように、自然との調和を図りながら育てていくことが目標である。

育つ力は、木自身が持っている。私がすべきことは、最大限にその力を発揮できるように、環境を整えることである。そのために、「木をよく見て、よく知り、木の声に耳を傾けよ」と言われる。木と対話することによって、木が持つ力を最大限に引き出すことができる。また、周りの自然とも対話し、その力を借りることも大切である。

子どもたちを育てる時も同じだ。子どもの声を聴き、周りの声を聴く。そうすれば、自身の力を発揮し、無理なく、まっすぐに成長してくれる。そんな環境を作ることが、私の本業である。

近藤先生による食育 年間3回実施予定



「あすなる教室」

TEL 0897-37-7474

FAX 0897-32-6822

e-mail asunaro@city.niihama.lg.jp

